のテーマで部会が組まれ，合計31本の報告があった．

研究所からは，釜野さおり（人口動向研究部室長）がテーマセッションのオーガナイザー，司会及び報告（「同性カップルの生活と関係性の計量分析の試み―法律婚・事実婚との比較から―」神谷悠介，コー・ダイアナとの連名報告）を行い，守泉理恵（同部室長）・岩澤美帆（同部部長）が連名にて自由論題での報告（「少子化過程における夫婦の妊娠動向：妊娠前意図を考慮した妊娠数，流死産／人工妊娠中絶，出生」）を行った．さらに，斉藤知洋（社会保障基礎理論研究部研究員）が『家族社会学研究』第32巻第１号に掲載された論文「シングルマザーの正規雇用就労と経済水準への影響」にて第９回奨励論文賞を受賞した．（守泉理恵　記）

2022年日本地理学会秋季学術大会

2022年日本地理学会春季学術大会が，９月23日（金）から９月25日（日）にかけて，香川大学の幸町キャンパスで開催された．2019年秋季学術大会（新潟大学）以降，新型コロナウイルス感染拡大により対面での開催ができない状態が続いていたため，実に３年ぶりに学会員が一同に会する場となった．３件の公開シンポジウム，１件の公開講演会，83件の一般口頭発表，32件のポスター発表が行われ（件数は大会プログラムによる），質疑応答では大学院生による積極的な発言もみられた．当研究所からは，小池司朗・人口構造研究部長が「平成の大合併」前後における旧市町村別の人口動態について，久井情在・国際関係部研究員が兵庫県但馬地方における移住促進の取り組みについて，ともに一般発表の「人口・行動」セッションで報告を行った．（久井情在　記）

日本人口学会2022年度第１回東日本地域部会

2022年10月１日（土）の13時30分から17時30分の予定で，東日本地域部会が札幌市立大学サテライトキャンパスにおいて，昨年度に続き対面とZoomによるオンラインのハイブリッド形式で開催された．今回の部会では，対面参加者による９報告とオンライン参加者による２報告とをあわせた11の口頭報告が行われた．これは，日本人口学会ホームページにプログラムが残る2014年度以後の東日本部会（自由論題報告で構成される札幌もしくは仙台開催の第１回部会，シンポジウム形式で開催されることが多い第２回部会）のなかで最も報告数の多い部会であり，近年開催された関西・中部・九州の各地域部会と比べても最大規模の部会となった．対面会議の場への参加者は13名で，社人研からは鎌田構造部室長，井上国際関係部研究員，久井国際関係部研究員と，国際関係部に研究生として１ヶ月間在席しているセドリック・フォンテーヌ氏と，菅が出席した．オンライン参加の出席者総数は正確に把握していないが常時20～30名ほどであったと思われる．このように報告数も多く，参加者も新型コロナウィルス感染症が発現する前の水準に戻りつつあり，オンラインの参加者が加わった新しい形での開催であった．また，すべての報告に対し複数回の質疑応答が行われる 密度の高い部会であったことも印象的である．そのため，会議時間の制約から，ほとんどの報告において質疑を途中で打ち切るような やや忙しない進行となったが，会議は予定時間を大幅に超過した18時30分頃まで活発に続けられ，各参加者が相互に刺激を受ける有意義なものとなった．

限られた時間のなかでの報告では，報告者にとっては専門的・技術的な側面を十分に伝えられないとともに，聴衆にとっては細部の把握が難しくならざるをえない．今回の部会では，本会議終了後も熱心な意見交流が行われているのが散見されたのが印象的だった．また，人口学会会員・参加者の固